

令和8年度 南海医療センターにおける看護職員負担軽減計画

● 看護職員の勤務状況(R8.4.1)

- 病院規模 : 195床(許可病床数195床)
- 看護職員数 : 常勤171名(育休者除く)、非常勤9.6名(常勤換算)
- 週平均勤務時間 : 週39.75時間
- 超過勤務時間 : 週平均7.7時間
- 平均夜勤回数 : 月平均4.0回 (※2時間未満の夜勤従事を含む)

● 看護職員負担軽減のための取組

- 各病棟へ看護補助者を2～7名配置している。
- 各病棟へ事務業務を行う看護補助者を1名配置(派遣含む)している。
- 看護補助者研修を実施し、技術向上を図っている。
- 看護DX導入による負担軽減
- 各種委員会の開催は業務時間内に行い、時間外勤務の軽減に努めている。

● 看護職員負担軽減に係る目標及び計画

項 目	現 状	目標及び計画
看護補助者の増員・業務分担	看護補助者を各病棟に配置し、軽症又は回復期の患者に対して看護補助行為を行うとともに、看護師の補助者として看護補助業務を行っている。主に患者のベッド周囲の環境整備や保清、また配茶など、日常生活のケアは看護師の指示のもと、看護補助者が計画的に実施している。	協働することにより、看護チームの一員としての行動をとることができる。(ミーティング後の行動確認・配膳・保清の援助・移動時の補助・ベッドメイキング・環境整備・地域包括ケア病棟において日常訓練の補助)
看護DX導入による業務軽減	超過勤務において看護記録の負担が大きい。看護記録の標準化はできておらず、個人による内容の違い、逐次入力できないことによる、情報共有の遅れなどによる、インシデントも起きている。インシデントが起きるとモチベーションも低下する。	看護記録支援システムの導入による記録負担の軽減。スマートベッドシステム導入しピクトグラムの活用。ITによるバイタル逐次入力による記録漏れ回避。
多職種による役割分担	理学療法士による患者病棟外送迎。 臨床検査技師の夜早朝の検査検体回収業務。 放射線技師による患者病棟外送迎。	多職種連携として、協働できる業務は話し合い、協力体制の構築 理学療法士・栄養管理士の病棟配置による患者指導や、食事時のポジショニング、移動時の補助。
専門資格者の取得	認定看護師5名。(WOC1名、認知症看護1名、感染管理2名、緩和ケア1名。) 診療看護師(特定行為研修修了者)2名。	特定行為研修を実施し、院内での特定行為取得者を増やす。診療看護師の業務を確立し、日々の業務の負担軽減を図る。
時間内の研修の実施	研修はすべて時間内を遵守。	ハイブリッド研修の開催や研修内世の見直しを行い、勤務時間管理を徹底することでワークライフバランスを整える。